

第 3 回基本構想審議会グループ討議概要

《領域 I 「持続可能な活力あるまちづくり」》

- 1 産・学・遊・住の機能が調和し、人々の活力のもとでいきいきと暮らせるまち
- 2 一人ひとりが環境に配慮し、暮らしの文化をともに育てるまち
- 3 安全で快適な都市基盤が整備されたまち

○中央線等により、東西交通の便はよいが、南北交通については、若干工夫が必要ではないか。

○「山手の下町」という発言があったが、ハード面では、歩行者と車両の分離を考え、安全な通行を考える必要がある。

また、ソフト面では、「グローバルなおもてなし」ということがキーワードになる。

東京オリンピック・パラリンピックを踏まえ、観光都市として、英語、韓国語、中国語などで、まちの案内ができるようになるとうい。

○様々なイベントが、ビジネスと結びついていない。その辺を踏まえ、ソーシャルビジネスの創設、商店街の活性化を考えたらどうか。

○ブロードウェイで、障害者の芸術活動を支援しているが、そういう活動を、統廃合したような小・中学校を活用した複合施設などで行えるようにしたらどうか。健常者も障害者も楽しく生きていくためのソーシャルビジネスということも大切である。

○環境の問題では、再生可能エネルギー等を、リサイクルと一緒に普及できないかという話があった。現在のリサイクル率は 27%、それを 40%にする。そういうまちづくりをする。そのため、環境保全を考えるような技術革新型のビジネスを誘致したらどうか。

○バリアフリーもそうだが、安全安心なまちが大事で、道路幅員が狭く、火災危険度が高いという状況の解消、まちの不燃化ということも、まちづくりのビジョンの一つだと思う。

○バリアフリーが中途半端である。

○23区の中で、事業所数が下位だが、ソーシャルなビジネスの支援等、何らかの対策により、事業所数の増加を図りたい。

○商店、商店街を対象に、地区計画制度を活用して、より良い街並みの形成、地域の核としての整備を図ることが大切ではないか。

○産・学・金融の連携が大事。創業するのはお金もかかるし、ノウハウも重要。

《領域Ⅱ「自立してともに成長する人づくり」》

- 1 家庭を基本に、地域全体で子どもをはぐくむまち
- 2 子どもから大人まで持てる力を生かしながら、地域の中でのびやかに暮らせるまち

○子どもたちの自己形成や、社会的自立を促すためには、コミュニケーション能力を育成していくことが大事。

そのためには、まず身近な地域で声を掛け合い、あいさつをしていくことが必要ではないか。

○どこの誰か不明な人から声をかけられても、身の危険を感じる人もいる。また、区内の私立学校に通学する子どももいる。

その辺を踏まえ、例えば、「あいさつ運動」シールを貼った人が、それぞれの地域であいさつを行うような工夫も必要。

○毎日顔を合わせ、あいさつすることによって、子どもたちが困った時に、大人に一声かけて、安全が確保されるということがあるのではないか、

それによって、安心安全のまちづくり、防犯対策に繋がるものだと思う。

○いじめ問題について、各自の経験に基づき、どのような対応が良かったかなどのお話が出た。やはり地域の中で、具体的に支援し合え、SOSを発信できるような、サポート体制が必要ではないか。

○スクールカウンセラーに対しても、直接SOSの電話ができるような仕組みが大切なのではないか。

○障害者についても、自分が社会の中で必要とされていると感じられる仕組みづくりが不可欠である。

○ある地域では、音読サービスを続けるうちに、子どもたちの中からの、このようなことを学んだということ踏まえ、習熟度の様子を、サポートに来てくれた人にも帰しているということもある。

○お互いの顔が見える支援をつくっていくこと、学校と地域の連携が、充実していく中で、子どもたちの社会参加の場が確保され、それを社会全体で受け止める体制づくりが大切なのではないか。

そのためには、産業と企業と学校が連携していくことが大事である。

○行政も加わり、大学生が地域の中で活躍し、外国人等多様な人を受け入れ、中野区は一味違うというような人づくり、自立して成長していけるような人づくりが大切だと考える。

《領域Ⅲ「支えあい安心して暮らせるまち」》

- 1 だれもがみずからの健康や暮らしを守り、自分らしく生きているまち
- 2 地域で支えあい安心して暮らせるまち
- 3 だれもがいきいきと安心して過ごせるまち

○領域に係るデータを分析しながら、10年後の姿、課題を考えたい。

○10年後に、中野区は、75歳以上が4万4千人、27年度では3万5千人と、約1万人増加する。また、一人暮らしの高齢者が増加していくことが課題。

○障害者については、精神障害者がこの4年間で700人増加している。

○健康診断の受診率は、他区と比較して、あまり良いとは言えない。

○介護保険については、要支援1の認定が、5年間で800人増加している。これは、権利意識による申請という面もあると思うが、財政的には非常に厳しいことである。

○介護給付額は、毎年10億円程度増加している。75歳以上の高齢者の増加を考えると、今後の介護保険財政は非常に厳しい。

○健康づくり、介護予防、孤立しない地域を考えると、地域での居場所づくり、そこへどのように誘うかなど、相当地域に密着した対応が必要になる。

○75歳以上の高齢者が4万人ということは、町会あたり400人となる。

そういう意味で、身近なところにオープンで、若い人も、障害のある人も、子育てをしている人も、高齢者も集まれるような拠点が必要だと考えている。

○若い人が住めるまちということを考えると、サンプラザやサブカルチャーが有名だが、みんな素通りしているように感じる。

○若い人が住めるまちづくり、工夫が大切である。

例えば、昨今のシェアハウスの流行を考えると、一人暮らしの高齢者と学生と一緒に住む、また若い芸術家が安く住めて、展示会ができるなどの工夫が必要ではないか。

○千代田区は、家賃補助とか経済的な援助で成功している。この辺は学ぶべきではないか。

○個々のサービスについては、まだ議論をしていないが、本当に必要な人にどんなサービスを提供すべきかを考えていきたい。

《領域Ⅳ「区民が発想し、区民が選択する自治」》

- 1 地域を基盤に、区民みずからまちづくりに取り組むまち
- 2 「小さな区役所」で、質の高い行政を実現するまち

○「山手の下町」というイメージは、非常に重要だと思う。そのためには、やはり町会・自治会が基本的なベースとなるだろう。

町会の活動においては、公立小・中学校の学区が、きちんと機能していくことが必要であって、そのコミュニティづくりということも、また必要ではないか。

○最近では、区内でも子どもがほとんどいない地域も出てきている。小学校区、中学校区とは別の核が必要ではないか。

○商店・店舗については、中野駅周辺については、山手ということで百貨店などが立地するが、その周辺は商店街をコミュニティとして位置付けることが必要ではないか。

○様々なまちづくりによって、「ふるさと」としての中野をつくり上げていけたら良いと思う。子育てが、コミュニティの中で展開でき、「ふるさと」として住み続けてもらうまちになったら良い

○「小さな区役所で質の高い行政を実現するまち」については、これから議論を深めるのだが、単なる「小さな区役所」でよいのかという議論があった。

町会・自治会の機能も限られてきている中、単に行政が小さくなるだけでは、いけないのではないか。

○民間事業者が担っているサービスの質が確保されているのかということも課題である。

○いずれにしても、「小さな区役所で質の高い行政を実現するまち」という表現については、見直しが必要ではないかと考えている。